

群 教 セ	G02 - 04
	令3.278集
	社会 - 高

諸資料から読み取った情報を基に歴史的事象の因果関係や影響を考察し、表現できる生徒の育成

— A B シートの使用と友人の意見を参考にして表現力を高める活動を通して —

特別研修員 内山 一樹

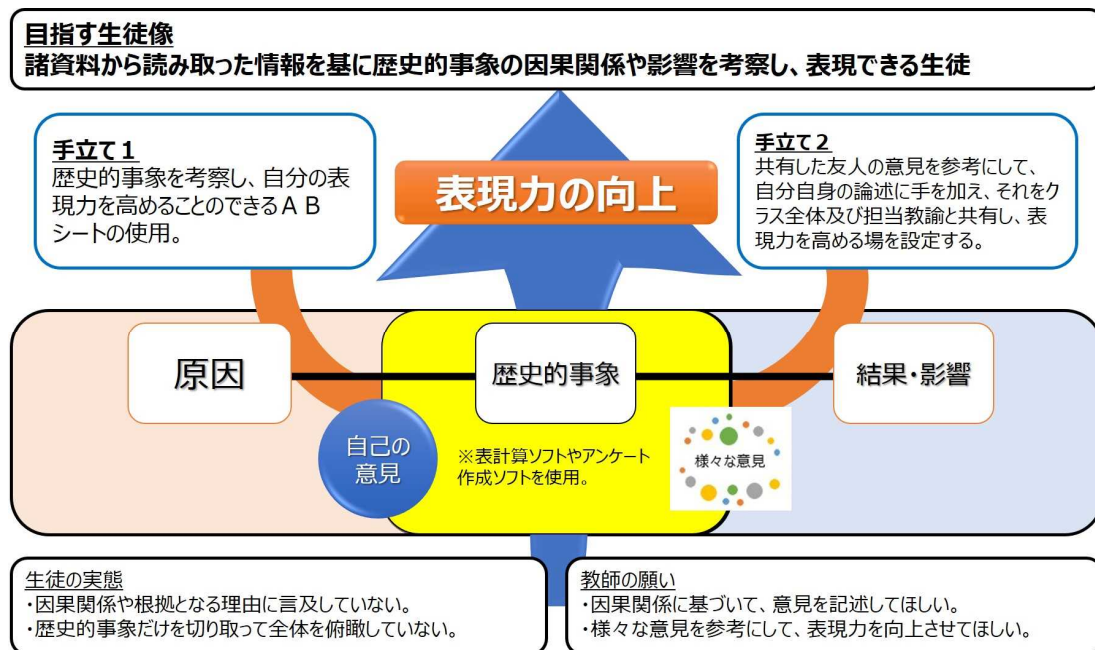
I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説の地理歴史編の目標に、「地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」とある。しかし、第3期群馬県教育振興基本計画では群馬県の学生の現状として、「思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力、人間性等を育むため、主体的・対話的で深い学びの実現」が課題だとしている。

本校の生徒は早い段階で総合的な学習の時間の中で取り組んでいることもあり、自分の意見をまとめて発表することに慣れている。日頃から各教科の授業でも近くの友人と議論をし、意見をまとめることを取り入れている。しかし、個々の生徒の意見を見てみると、因果関係や根拠となる理由に言及していないことが多い。歴史的事象だけを切り取って全体を俯瞰していない。昨年度から全生徒にICT端末が導入されたが、授業での理解を深めるために使用されている例は少ない。そこで、表計算ソフトを活用して、考察した内容を客観視させることで、自分が作成した文章でどこが足りなかったのかを確認し、諸資料から読み取った情報を基に歴史的事象の因果関係や影響を考察し表現できる生徒を育成できると考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

手立て1 歴史的事象を考察し、自分の表現力を高めることのできるA Bシート(表計算ソフト)の使用。

手立て2 共有した友人の意見を参考にして、自分自身の論述に手を加え、それをクラス全体及び担当教諭と共有し、表現力を高める場を設定する。

手立て1のA Bシートとは、表計算ソフトを用いて、自分の意見と他人の意見を共有し、表現力を高めることを目的に作成したものである。A Bシートには「Before(まずは自分自身の意見を書いてみよう)」という列と「After(他者の意見を参考にして改良してみよう)」という列を設定する。まず、問いに対する自分の意見をまとめ、表計算ソフトに入力していく。この時に生徒全員がデータを共有し、編集できる状態にしてあるため、友人の意見は見ないで入力することを伝える。

手立て2では、「Before」で入力した意見と、共有した友人の意見を参考にして、「After」に改良した意見を入力していく。問いが複数ある場合には、問いごとにタブを増やし、同じシートを作成していく。さらに授業の最後にはまとめとして、自分の意見が「After」に変容した理由を、アンケート作成ソフトに入力する。自分の意見を「Before」で述べ、他者の意見を共有することで、その他者の意見を参考にしながら、主張の根拠を明確にし、「After」に変容させていくことによって、歴史的事象の因果関係や影響について、高い思考力や表現力をもって考察できると考えた。

III 研究のまとめ

1 成果

- 高校生においては、パソコンを使って入力することには慣れているので、自分の意見を口頭で発表することよりも表計算ソフトを用いた方が様々な意見が出るようになった。
- 表計算ソフトでは、リアルタイムで友人の意見を見ることができるので、自然と様々な意見を共有し、他者との意見と比較する中で、根拠を探し、自分の意見を深めていこうとする姿勢が見られた。
- 個々の意見を表計算ソフトに並べることによって意見の比較をすることができた。これによって、資料を参考にして、歴史的事象の因果関係や影響について深く考察することができた。
- 諸資料から読み取った情報を基に歴史的事象の因果関係や影響を考察したことを根拠に、表現できる生徒が増えた。

2 課題

- 自分の意見が「After」に変容した理由や根拠を、授業後にアンケート作成ソフトで振り返る方法をとったが、より深い学びや根拠を明確にするためには、その場で表計算ソフトに新たな列(「After」に変えた理由)を設定し、考察させることも必要である。ただし、考察するために多くの時間を要するため、多くの問いを設定することが難しい。
- 表計算ソフトを用いて全員の意見を共有した時に、その中からいくつか意見を抽出し、全員でその意見について話し合う方法もある。問いを多く設定すると「After」を作ることだけに一生懸命になってしまっていた。問いを少なく設定して、何人かの意見を取り出して考察したことを根拠にして、表現力を高めていくことも必要である。

実践例

1 単元名 「鎌倉文化」 (第5学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、単元を貫く問いとして、鎌倉文化が庶民や武士に広まった理由について考察する。その際、最初に思想・学問・芸術についてまとめ、鎌倉文化の特徴について理解する。そこから鎌倉仏教に焦点を当てて鎌倉時代の情勢や前代の文化と比較し、鎌倉時代の仏教と前代の仏教の対立構造について考察する。様々な史料や図版を参考にしながら考察することで、仏教の共通点や相違点に気付くことができ、鎌倉文化の特徴について、多面的・多角的に考察することができる。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	鎌倉時代の文化について、諸資料を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 庶民や武士の活動が活発化し、新仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。(知識及び技能) イ 鎌倉文化の特徴について、前代の文化と比較し、当時の政治・社会の様子と関連付けながら考察する。(思考力、判断力、表現力等) ウ 鎌倉文化に関連した様々な資料を基に、文化が人々に広まった理由を、他者の意見を参考にしながら主体的に追究しようとする。(学びに向かう力、人間性等)	
評価 規 準	(1) 庶民や武士の活動が活発化し、新仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解している。(知識・技能) (2) 諸資料を基に、鎌倉文化の特徴について、前代の文化と比較し、当時の政治・社会の様子と関連付けながら考察している。(思考力・判断力・表現力) (3) 鎌倉文化に関連した様々な史料を基に、文化が人々に広まった理由を、他者の意見を参考にしながら主体的に追究しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)	
過程	時間	主な学習活動
つか ひ	第1時	・鎌倉時代の政治や社会、外交の様子を想起し、鎌倉文化普及の理由を追究する意欲をもつ。 【単元を貫く問い】鎌倉文化が庶民や武士に広まった理由は何だろう。
追究 す	第2時	・僧侶の著書や文学の特性、建築物の写真などを基に鎌倉文化の特徴をまとめる。 ・僧侶の活動によって庶民や武士を中心に鎌倉や京都などに文化が波及していくことを考察する。
まとめ る	第3時	・鎌倉仏教を担った僧侶に関係する史料を用いて、鎌倉文化が庶民や武士などに普及していった影響や歴史的事象の因果関係を考察する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全3時間計画の第3時に当たる。これまでに鎌倉文化の特徴について、政治・社会・外交などの側面を参考にして学習した。特に鎌倉仏教については、当時の庶民や武士等に広く広まったということもあり、各宗派の特徴を細かくまとめた。鎌倉時代以前の仏教については、奈良時代の南都仏教や平安時代の密教・浄土信仰についても時代背景と共にその特徴を学んできた。

本時では、教科書に「旧仏教側からの非難が高まり、法然は土佐に流され、弟子たちも迫害を受けることになった」、「新仏教に共通する特色は、天台宗・真言宗をはじめ旧仏教の腐敗を批判」という記載しかされていないことから、鎌倉仏教と旧仏教の特徴を、諸資料を基にして時代背景も含めて比較して考察する活動を設定した。そこで意見交流の際に、自分の意見と友人の意見を比較する活動を取り入れた。まず、自分の意見を述べる。次に、友人の意見と比較して、自分の意見を改良する。最後にどのような根拠に基づいて自分の意見を改良したのか(改良しない場合も)を考察する。

これらの活動を通して、生徒全員が諸資料から読み取ったことを自分の考えとしてまとめ、より深く追究する活動を行うことができた。

手立て1	歴史的な事象を考察し、自分の表現力を高めることのできるABシート(表計算ソフト)の使用。
手立て2	共有した友人の意見を参考にして、自分自身の論述に手を加え、それをクラス全体及び担当教諭と共有し、表現力を高める場を設定する。

4 授業の実際

導入では、鎌倉仏教について一通り整理させた後、本時のめあてである「なぜ、『旧仏教』側が『新仏教』側を批判したのだろうか」という問いを提示し、授業の流れを簡単に説明した。

(1) ABシート（表計算ソフト）の使用によって歴史的事象を考察する活動

まず、鎌倉仏教の資料として法然の『一枚起請文』、唯円の『歎異抄』、懐奘の『正法眼蔵随聞記』、貞慶の『興福寺奏状』（いずれも現代語訳）を提示した。鎌倉仏教では大きく他力門と自力門に分類され、他力門から二つ、自力門から一つ選んだ。また、旧仏教側で入手できた史料の一つを提示した。これは法然の専修念仏や新仏教全体について批判したものである。これらの史料を比較しながら問1「新仏教はなぜ、武士や庶民層に広く受け入れられたのだろうか」を提示した。新仏教が武士や庶民に広がったということは、旧仏教は武士や庶民に広がりにくかったということである。ということはこの新旧の仏教の側面や歴史的背景を比較できれば初めに提示した本時のめあてを探ることができるのではないかと考えた。今回はICT端末の表計算ソフトを使用し、自分の意見を「Before（青）」のセルに入力してもらった（図1）。このウェブブラウザ上の表計算ソフトに入力すると、教員と生徒全員が共有しているので、同じ画面に意見をすぐに集約することができる。主題（何を問われているのか）と条件に注意して日頃から文章を書いていたこと生徒は時間内に入力をする事ができた（図2）。



図1 ABシートに入力している様子

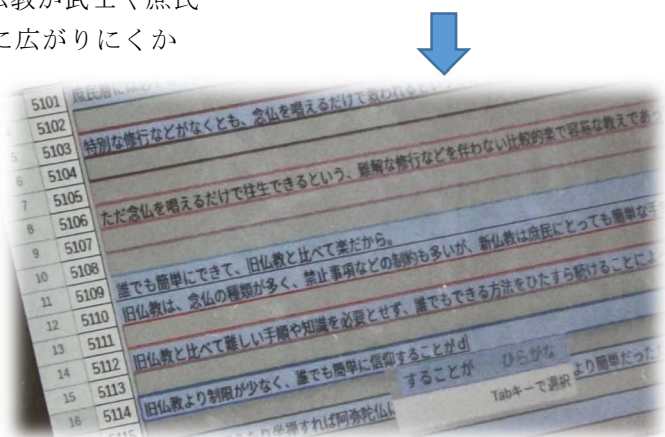


図2 入力状況を確認している様子

もあり、

(2) 共有した友人の意見を参考にし、自分自身の論述に手を加え、それをクラス全体及び担当教諭と共有し、表現力を高める活動

この段階で画面の「Before（青）」の列には、共有されたクラス全員の論述が並んでいる。そして、その意見を参考にし、自分自身の論述に手を加えて「After（赤）」のセルに入力してもらった。その際に同じ班で意見を交わすことによって、自分たちの班の意見だけではなく、他の人の意見についても意見を交わし、創意工夫を加えて自分自身の論述を改良することができた（図3）（図4）。このように「Before（青）」から「After（赤）」に改良することを、問2「旧仏教側はなぜ、新仏教側を批判したのだろうか」でも同様に行った。同じ班の友人と相談して一つの意見にする活動では、どうしても他人の意見に賛同することが多く、自分自身の意見を出さないことが多かった。しかし、今回は、同じ班の友人と相談することに加えて共有されたクラス全員の意見を共有された画面上で見ることによって、他者の意見を参考にし、主張の根拠を明確にしていく姿が見られた（図5）。また、班での意見交流においても、教科書や図説に加えて、クラス全員の意見も話合いの材料となっていたので、質の高い話し合いをすることができていた。最後に一人一人に、自宅でアンケート作成ソフトに入力してもらい、なぜ改良するに至ったのかという根拠や、自己評価を詳しく振り返ってもらった（図6）。



図3 画面を見ながら班の友人と意見を交わす様子

<p>【Before】 誰でも簡単にできて、旧仏教と比べて楽だから。</p> <p>↓</p>
<p>【After】 旧仏教は来世への安堵と恐怖感によって民衆の心を呪縛したが、新仏教は比較的簡単にできるため民衆に広まった。</p>

図4 生徒の論述の変化例（問1）

<p>【Before】 旧仏教が重んじていた戒律や仏教の教えを否定するような教えを示したことに納得がいかなかったから。</p> <p>↓</p>
<p>【After】 新仏教は手軽さを重視したゆえに旧仏教が重んじてきた鎮護国家思想や戒律を否定するような教えを説いたことに納得がいかなかったから。</p>

図5 生徒の論述の変化例（問2）

<p>Q3 自分自身の意見（Before）を改良（After）した時、どんな点を重視（着目）しましたか。</p> <p>みんなに共通しているキーワード、及び自分のBeforeの意見の軸を大事により深まりのある意見になるように改良した。</p> <p>長く書きすぎるところがあるのでなるべくシンプルにまとめられるように意識した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長すぎる文章を短いものに変えた。 ・Beforeのときに周りが入れていた言葉を取り入れた。 ・早めにAfterを入れた人の解答を参考にした。 <p>自分の意見に不足しているところや余分であったところ、みんなの意見の中で気づけていなかった重要なポイントに着目して回答に取り入れ、できるだけ簡潔に重要事項を多く含んだ文章にまとめることを意識しました。</p> <p>班員の意見を参考にしながら、教科書や資料集を使って回答となるような文言を見つけて、根拠のある回答を目指しました。</p> <p>他の人の意見や色んな資料を参考にし、多角的に考えること。</p> <p>多くの人に取り入れられている意見をいれること、的確に問題の意図を読み取ること</p>
--

図6 本時の振り返りアンケート（一部）

5 考察

事後アンケートによると、自分では気付けなかったポイントを参考にした生徒や、「Before」を軸としてより深まりのある文章を考えた生徒が多かった。実際の授業やアンケート結果から分かる成果として、話し合い活動の中でも他の生徒と意見を共有することによって、どのように文章を深めていけばよいのかという思考が生まれ、表現力を高める活動となることができた。また、高校生段階ではパソコンを使って作業することも多く、パソコンに入力することの方が、口頭で伝えるよりも自分の意見を表現しやすいという側面も見られた。また、あらかじめ班で話し合いをする体制を作っておいたことで、ただシートに入力するだけでなく、他の意見やアドバイスを得ることができた。そのため、「After」のセルにより改良された自分自身の意見を論述することができたのだと感じた。課題として、問いを2つ設定したため時間がかかり、一人一人の意見について生徒全員で振り返る機会を作ることができなかった。歴史的な見方・考え方を追究するためには、問いを1つに絞って、その「After」の意見が出揃ったところで意見を交わすことも必要である。もう1つは、自分自身の意見を改良する際に、どのような点を重視したかという問いを、事後アンケートで問うのではなく、授業の中で設定することで自己の考察の変容を見取らせることが必要であった。

6 資料

① 鎌倉仏教資料

鎌倉仏教資料

新仏教

『一枚起請文』／法然 ㊦

私が執く念仏は、中国や日本の多くの高僧・學者たちが唱える念仏ではない。また、学問をして念仏の意味を理解するものでもない。ただ後家浄土に往生するためには、南無阿彌陀仏と思えることで、必ず往生するのだと確信して念仏を唱える以外何も手掛はない。ただし、三心という心の持ち方、四修という態度は南無阿彌陀仏と口に唱えれば必ず往生できると思ううちに自ずから備わるのである。この他に深い意味を考えようとすると、釈迦と阿彌陀仏の慈悲の心からはずれ、本願による救いから離れてしまうであろう。

『教異抄』／唯円（親鸞の弟子） ㊦

親鸞はただ、「ただ念仏だけを唱えることによって、阿彌陀仏にお助けいただくのがよい」と、妻れた人（法然など）の仰せに従い、信じるほかに何もなし。…

善人でさえ救われるのだから、悪人はなおさら救われる。ところが、世間の人は常に「悪人でさえ救われるのだから、善人はなおさら救われる」と言っている。この言いは正しいように見えるが、阿彌陀仏の本願である他力による救いの考え方には反している。自分の力を頼って善行を行うことができる人は、一筋に阿彌陀仏の他力にすがることが欠けているからだ。

『正法明証隨聞記』／懷奘（道元の弟子） ㊦

ある日私が師に質問をした。「道場での修行生活の送り方はどのようにすればよいでしょうか。」師は答えた。「ひたすら坐禅をすることである。ある時は高殿の上で、ある時は高殿の下で、常に坐禅を行うのである。人と一絶であつてもおしゃべりせず、耳の聞こえぬ言や物言わぬ人のようにして、たえず一人で坐禅を好んですることである。」

旧仏教

『興福寺奏状』／貞慶 ㊦

- ・法然は、正当な鎌倉も、朝廷の勅許もなく、勝手に新しい宗派を名乗っている。
- ・専修念仏をする者だけが阿彌陀仏の救いにあずかり、天台宗や真言宗は救われぬという間違つた絵圖を作っている。
- ・阿彌陀仏のみを重んじ、釈迦を軽んじている。
- ・念仏のみが大事だとして、寺の造営や仏像の造営といった良い行いを妨げている。
- ・春日社や八幡社など、日本古来の神々に背いている。
- ・極楽往生にまつわる教えのうち、念仏だけを重く見て、考えが偏っている。
- ・さまざまな念仏の種類がある中で、もっぱら念仏を口に出して唱えることだけに偏っている。
- ・四善・双六・女犯（によほん）・肉食（にくじき）は往生をさまたげないといって（従来、僧侶には禁止されているのに）行っている。
- ・古来日本仏教は仏の力で国を治める護國國家の考えから起こってきたが、凡夫救済を旨とする浄土宗には、護國國家の発想が無い。

【鎌倉仏教の整理】

新仏教

旧仏教

Q1 新仏教はなぜ、武士や庶民層に広く受け入れられたのだろうか。双方の史料や【鎌倉仏教の整理】を参考に論述してみよう。

Q2 旧仏教側はなぜ、新仏教側を批判したのだろうか。旧仏教が隆盛だった時代背景に着目して、史料を参考に論述してみよう。

- 1 -

- 2 -

② A B シート（表計算ソフト）

	Q1 新仏教はなぜ、武士や庶民層に広く受け入れられたのだろうか。	
	Before（まずは自分自身の意見を書いてみよう）	After（他者の意見を参考にして改良してみよう）
5101		
5102		
5103		
5104		
5105		
5106		
5107		
5108		
5109		
5110		